

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4090500275		
法人名	医療法人 心愛		
事業所名	グループホーム メロディ (1ユニット・2ユニット)		
所在地	〒800-0244 福岡県北九州市小倉南区上貫三丁目3番25号 Tel 093-474-2558		
自己評価作成日	令和04年02月10日	評価結果確定日	令和04年03月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	令和04年03月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご入居者の体調の変化にいち早く気づき、適切な対応ができています。  
また、入院後、帰設が困難となった入居者に対して、転院や転設先を紹介できている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

自然が残る小倉南区の郊外に7年前に開設された、デイサービス、介護付有料老人ホーム併設で定員18名のグループホームである。母体医療法人医師による月2回の往診と緊急時の対応、訪問看護師、介護職員との連携で適切な医療が受けられる体制が整い、家族の安心に繋がっている。利用者の笑顔の写真を載せた「ふれあい通信」を家族に送付し、利用者の健康状態や生活状況を詳細に報告し、「コロナ禍の中でも様子がわかる」と大変喜ばれている。令和2年4月に現管理者が着任して2年。オープンな気持ちで、利用者、家族、職員、地域住民とのコミュニケーションに努めながら、「話しやすい、訪ねやすい」雰囲気作りを心掛け、信頼関係を築いている。利用者との関わりを通して得られる「感謝・感激・感動」の気持ちを大切にしながら、利用者、家族の想いを最優先に日々の介護サービスに真摯に取り組んでいる、「グループホーム メロディ」である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【ユニット共通】 あさも申し送り時間に事業所の理念を当日出勤職員と唱和し共有している。	法人の介護理念とメロディの理念を見やすい場所に掲示し、朝の申し送り時に出勤職員で唱和して、職員は理念の意義を理解している。併設事業所や母体である医療機関と連携し、理念、「心身の充実、愛情あるサービス、医療の充実」の実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	【ユニット共通】 令和2年4月に管理者として着任したが、着任直後より、コロナウィルスの感染が拡大し、ほとんど地域との交流が図れていない。	町内会会長から地域の行事や活動の情報を得て、利用者の状態を見ながら参加できるものには参加するよう心掛けている。コロナ禍以前は地域の敬老会で健康体操を行ったり、併設事業所の行事に参加する等していたが、現在は自粛している。	管理者が地域の住民であるので、コロナ収束後には、これまでの地域との関係に加えて新たな繋がりを開拓し、地域との交流を広げていく事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	【ユニット共通】 令和2年10月に地域の敬老会に参加させて頂いた。敷地内の介護付き有料老人ホーム「オーケストラ」地域密着型空所介護「ヴァイオリン」とも必要最低限の連携。地域の方も感染には強い懸念を持っておられる様子。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	【ユニット共通】 小倉南区の地域包括支援センターをお呼びでの運営推進会議は実施できていない。小倉南生活保護課の担当者とも面談できていないが、電話や手紙に連携を行っている。	コロナ禍の中で現在は、書面で報告する形での運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。利用者の状況、職員の体制、研修、事故・ヒヤリハット、日常の暮らしぶりを詳細な資料を付けて報告し、各委員から意見や要望等を聴き取り、ホーム運営に反映させている。	コロナ収束後は、参加委員の増員を図ると同時に、出入りの薬剤師、訪問看護師、歯科衛生士等に専門分野の話をしてもらいミニ勉強会を採り入れるなど、内容の工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	【ユニット共通】 ご意見箱を各ユニットに設置している。着任後、運営推進会議は書面のみで実際に会議は実施できていない。	管理者は、毎月1日に空き状況を報告している。事故があればその都度報告し、疑問点や困難事例について相談する等、行政担当者と連携を図っている。また、生活保護課や地域包括支援センター職員と常に情報交換しながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	【ユニット共通】 「身体拘束ゼロ宣言」を引き継ぎ継続。委員会での勉強会も定期的に行っている。	職員会議の中で定期的に身体拘束適正化委員会を開催している。身体拘束の研修を通して身体拘束となる具体的な禁止行為について職員間で共通認識することで、言葉遣いや対応に注意して、身体拘束をしない、させないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	【ユニット共通】 職員全体に虐待についての知識を再認識してもらい、特に曖昧であった「言葉使い」「排泄」に関することには、注意を払い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	【ユニット共通】 研修等を行い青年後見人制度についての理解を深めている。実際、制度を利用される方は、ご家族のいない方が多く、保護課に相談、ご家族に理解を求められる方については、管理者が説明を行う。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について内部研修を行い、職員の周知に努めている。制度に関する資料やパンフレットを用意し、管理者から利用者や家族に説明を行い、申請機関に相談しながら制度を活用できるよう支援している。現在、制度の活用に向けて検討を始めている利用者がいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	【ユニット共通】 ご入居時、制度の変更があった時は、都度、書面で通知し、不明な点は、随時お問い合わせに応じ対応、説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	【ユニット共通】 ご入居時、制度の変更があった時は、都度、書面で通知し、不明な点は、随時お問い合わせに応じ対応、説明を行っている。	日常生活の中で利用者の意見や要望を把握し、職員間で共有している。家族については、電話やメール等で意見や要望、心配な事等を聴き取り、ホーム運営や介護サービスに反映させている。苦情受付窓口を掲示し、意見箱を設置して、利用者や家族が意見や要望、苦情を表せる体制を整えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	【ユニット共通】 毎月職員ミーティングを実施。必要に応じ、個人面談を行っている。	月1回16時から1時間の予定で職員会議を開催し、話しやすい雰囲気の中で活発な意見交換を行っている。職員からの意見や提案は検討し、出来るだけホーム運営や業務改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	【ユニット共通】 職員のモチベーションの向上に努めているが、コロナウィルスの感染に対して、疲弊していることが多く、年次有給休暇の使用や特別休暇を寄与している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	【ユニット共通】 採用にあたっては、性別や年齢に関係なく採用。また、個々の職員が保有する能力を発揮できるように、配慮している。	職員の希望に沿った働き方や希望休の取得、有休の消化等、リフレッシュしながら生き生きと働くことのできる職場環境を整え、職員は定着しつつある。資格手当を引き上げる等、法人全体で職員の処遇改善に取り組み、職員が目標を持って働けるよう支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	【ユニット共通】 入居者に対し、人権の尊重、生命の尊厳について、職員等に対し教育、啓発に努めている。	利用者の人権を尊重する介護の在り方について、内部研修で学ぶ機会を設け、職員会議や毎日の申し送りの中で話し合うことで意識づけを行っている。職員は、利用者一人ひとりを知ることにも努め、利用者が生き生きとその人らしく生活できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	【ユニット共通】 職員ひとりひとりの経験、ケアの力量等を勘案し、外部の研修等を受ける機会の確保に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	【ユニット共通】 法人グループ内6か所のグループホーム管理者会議の定期的な実施と可能な限り外部からの研修案内には現場職員が出席出来るようにしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	【ユニット共通】 介護職員、計画作成担当者、管理者が、積極的に本人との信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	【ユニット共通】 介護職員、計画作成担当者、管理者が、一丸となりご家族との信頼関係の構築に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	【ユニット共通】 関係機関等からの初期の情報やご家族からの情報をもとに、本人把握のためのアセスメントを行い適切な支援が出来るように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	【ユニット共通】 常に本人を中心としてケアを考え、感情や思いを共有出来るように努めている。また、ご入居者相互が要人間関係を保てるように支援している。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	【ユニット共通】 ご家族の意見、ご意向を把握しながら、共に本人を支えることが出来る関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	【ユニット共通】 面会中止の期間が長い為、電話での会話や手紙(葉書)等を利用して関係が途切れないように側面的に支援している、	コロナ対策以前は、家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎し、馴染みの店の買い物に職員が同行したり、家族の協力を得て、自宅への帰宅や外食を楽しみ、利用者が長年築いてきた馴染みの関係が途切れないように支援していたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。電話や手紙の取り次ぎは支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	【ユニット共通】 日頃の交流や余暇活動を通じご入居者同士が関わりあえるように必要に応じて、座席の移動、雰囲気作りに配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	【ユニット共通】 契約が終了した後も、いつでも相談できるような関係づくりに努めている。年賀状等の投函を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	【ユニット共通】 日常生活の中で、ご入居者様の要望や意向を聞き取り、職員間で共有化サービスに反映出来るように努めている。困難な場合は、本人を中心としたケアを基本に検討している。	日常会話の中から、利用者の思いや意向を把握し、記録して職員間で共有し、介護サービスに反映させている。意向表出が困難な利用者については、家族に相談したり、職員間で気づきを出し合い、利用者本位の介護サービスに取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	【ユニット共通】 入居前後に収集した情報を基本とし、日々の申し送りをタブレットに入力、全ての職員が共有出来るように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	【ユニット共通】 心身状態、些細な体調の変化等を職員間で共有し、状況の把握に努めている。また、主治医、訪問歯科医師、訪問看護師、必要に応じて専門医との連携に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	【ユニット共通】 計画作成担当者を中心として、職員の意見を集約し、定期的なモニタリングを実施、3ヶ月毎の定期的な計画の見直しが行われている。	利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望を聴き取り、ケアマネジャーを中心にサービス担当者会議を開催し、利用者本位の介護計画を短期3ヶ月長期6ヶ月で作成している。また、利用者の状態変化に応じて、家族や主治医と話し合い、必要であればその都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	【ユニット共通】 介護記録にて日々の様子を記録に残し、申し送り(タブレット)を活用しながら、職員間の情報共有に努め、ケアの見直し等に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	【ユニット共通】 在宅酸素、バルーン留置の対象者の受け入れを行ったり、病院受診、買い物、外食、外出、外泊等の送迎、ご本人やご家族の状況を踏まえ柔軟な対応に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	【ユニット共通】 地域資源の把握に努め、可能な限り敷地内の有料老人ホーム、デイサービス、訪問相談員、ボランティア、上貫西校区会長等とのれんけいのなかで安全に暮らしを楽しむことができるように支援を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	【ユニット共通】 ご本人とご家族の希望を最優先し、納得のいく形でかかりつけ医を決めて頂くが、専門医を除いては基本的に法人母体の医療機関を選択されるケースが多いのが現状である。	入居前に利用者や家族の希望を聴いて主治医を決めている。母体が医療法人であることから、ほとんどの利用者が主治医として選択し、週1回の訪問看護師、介護職員との連携により、24時間安心の医療体制が整っている。また、他科受診や以前からのかかりつけ医受診には管理者が同行して受診し、結果を家族に報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	【ユニット共通】 やはた訪問看護から月4回の巡回訪問が行われており、訪問看護師との情報共有と受診等の助言など、日々の細やかな状態変化について適切なケアを受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	【ユニット共通】 管理者は入院先の医療関係の訪問やご家族への連絡を行い、医療連携室担当者、退院支援看護師との退院に向けた協議などを随時行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	【ユニット共通】 現状では、法人母体の医療機関で終末期を迎えるケースが多いが、入居契約時に「病状の重症化に対する指針」をもとに説明を行い、方針の共有化に努めている。	重度化や終末期の指針を基に、契約時に利用者、家族に説明を行い、同意を得ている。利用者の重度化が進むと家族と話し合いを重ね、主治医の意見を参考にしながら方針を決定し、関係者で共有して、利用者が安心してぎりぎりまでホームで過ごせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	【ユニット共通】 内部研修やマニュアル等を活用している。初期のバイタルバイタル確認、意識レベルの確認、救急通報等をほとんどの職員が対応できるように努めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	【ユニット共通】 大雨や土砂災害における訓練を定期的に行っている。また、避難場所等においては同一敷地内の有料老人ホームへの避難を取り決めており、上貫西町内会会長にもご支援いただいている。	非常災害を想定した避難訓練を毎年3回実施し、2回は火災を想定、1回は土砂災害を想定して行っている。裏山の土砂災害を想定し、併設の介護付き有料老人ホームの3階に避難する事や避難経路を確認している。また、非常用持ち出し袋を玄関に用意している。	災害時に備えて、利用者の状態に合わせた形態の非常食の準備が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	【ユニット共通】 事業所基本理念を念頭に置き、対応するように心がけている。不適切な言葉かけやケアを行っていないか、職員同士でチェックできる雰囲気づくりに努めている。	利用者のプライバシーを尊重する介護サービスについて、職員会議や研修会の中で話し合い、言葉遣いや対応に注意して、利用者のプライドや羞恥心に配慮したケアに取り組んでいる。また、個人情報の取り扱いや、職員の守秘義務については管理者が常に職員に説明し、周知徹底が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	【ユニット共通】 本人の意思表示の可否に関わらず、コミュニケーションを密に図り、自己決定が出来るように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	【ユニット共通】 ご本人の意思を確認し、それに沿った支援が出来るように可能な限り努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	【ユニット共通】 ご本人の好みに合わせた格好が出来るように配慮したり、同じ服を何日も着ないように助言している。また、ご家族からお預かりしている衣類から日常着の身だしなみを整えて差し上げ、化粧等も適宜行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	【ユニット共通】 随時、ご入居者の希望等を聞きながら職員と入居者が一緒に食材の下処理やおやつ作りなどを行っている。	配食サービスを取り入れながら、旬の食材を使った手作りの料理や食レク、おやつレクに取り組み、利用者へ美味しい料理が提供できるよう努力している。家族の協力で外食に出かけることも利用者の楽しみであったが、コロナ禍で現在は自粛している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	【ユニット共通】 毎日の食事量、水分摂取量の確認と記録を行い摂取量の変化に早期に対応できるようにしている。また、日常的な食事はもとより、体調不良による食欲不振時の対応として主治医指導、助言のもとで必要な物を迅速に提供できるように可能な限り支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	【ユニット共通】 訪問歯科医師の指導のもと、毎食後の口腔ケアを行い、香薰内の清潔保持に努めている。また、口腔内に異常が確認された場合は、ご家族の同意を得て訪問歯科医師が、適宜治療を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	【ユニット共通】 排泄に対するご入居者の思いを尊厳と考え出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援を行っている。(18名中1名は常時オムツ使用 1名はバルーン留置のご入居者あり。)	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は、利用者一人ひとりの生活習慣や排泄パターンを把握し、それぞれの間隔でトイレで排泄できるよう、声掛けや誘導を行っている。夜間も極カトイレに行くようにしているが、利用者の状態に応じて、ポータブルトイレを設置したり、パットやリハビリパンツ、オムツの使用方法を工夫している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	【ユニット共通】 毎日のリハビリ体操、個別の散歩とうも適宜取り入れながら、こまめな水分補給と食物繊維の接種、乳製品、発酵食品の提供等で対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	【ユニット共通】 週3回の入浴日を設定その日の本人の意向、体調不良等で入浴できなかった時は日曜日を予備日として対応できるように調整している。季節の雰囲気づくりの為、ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を使用している。	利用者の希望や体調に配慮しながら週3回の入浴を基本とし、菖蒲や柚子、入浴剤を入れて、季節を感じることが出来るように工夫している。利用者と職員が一对一でゆっくり会話しながら楽しい入浴となるよう取り組んでいる。また、拒否の強い利用者には、時間をずらしたり、職員が代わって声掛けし、無理強いのない入浴の支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	【ユニット共通】 生活リズムの維持に十分配慮しながらその方の習慣や体調に合わせて居室のベッドで休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	【ユニット共通】 内服薬の内容を職員が把握し、病状の変化の確認、服薬情報の申し送りなど、誤薬事故のないようにかくじつな服薬管理に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	【ユニット共通】 個々の趣味、嗜好を把握し、可能な限りその方が楽しみをもって日常生活が遅れるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	【ユニット共通】 着任直後からコロナウィルスの感染拡大により、現在は外出中止となっている。終息すれば、四季に応じた外出レクや外食等を実施したいと考えている。	道の駅へのドライブやコスモス見学等の外出レクには家族にも声をかけて出かけ、家族の協力を得て、一時帰宅や外食等も楽しんでいたがコロナ禍の中で現在は自粛している。この春は、コロナの感染状況をみながら、車から降りない花見ドライブを計画している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	【ユニット共通】 ご家族の了承のもとで、少額のお小遣いを自己管理できる方は自分で管理されている。外出が出来ない昨今は、ご本人の希望により職員が買い物の代行をするなど柔軟に対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	【ユニット共通】 希望があれば、電話や手紙のやり取りが出来るように柔軟に対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	【ユニット共通】 安心して快適な生活ができるよう、慣れ親しんだ環境づくり、生活感のある環境づくりに努めている。	ホームの玄関前のプランターに季節の花を植え、手入れを利用者と行い季節を感じる暮らしを支援している。室内には、絵画や季節毎の飾り物、職員と一緒に作った作品等を飾り、温かな雰囲気のある共用空間である。また、清掃を小まめに行い、安全に気持ち良く過ごせるように配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	【ユニット共通】 構造上、間仕切り等ができない為、共有空間はフリーの状態にしている。フロアのソファやイス等は自由に動かせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	【ユニット共通】 ご本人、ご家族の意向を伺いながら、大切にしている写真や絵画、仏壇や使い慣れた家具など、可能な限り自由に持ち込んで頂き、少しでも心地よく過ごして頂けるように対応している。	安全への配慮があれば、持ち物を自由に持って来てもらうようお願いし、これまで使用していた家具や仏壇、冷蔵庫、家族の写真、ぬいぐるみ等、馴染みの物を身近に置く事で、利用者が安心して過ごせる環境作りに取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	【ユニット共通】 ご本人やご家族、職員の意見を集約し、できる限り自立した日常生活を送ることが出来るような環境づくりに努めている。		